



「循環炭素化学」-未来へ

## セミナー「“循環炭素化学”を語ろう！」開催報告

2014年11月28日

石油化学工業協会

当協会は、11月21日にセミナー「“循環炭素化学”を語ろう！」を開催いたしました。本セミナーは昨事業年度に、石油化学産業の理解度向上、更には当業界の人材確保にも資することを目的に展開した“新しい化学”にふさわしいネーミング公募キャンペーンで最優秀賞となりました『循環炭素化学』の普及・啓発を目的に開催されたもので概要は以下の通りです。

(巻末に当日配布の、メンバー並びに“循環炭素化学”ロゴ紹介資料を掲載しました)

1. 日 時 2014年11月21日(金) 15:00~17:30

2. 場 所 安田コミュニティープラザ(東京都千代田区)

3. 参加対象 石油化学工業協会会員及び関連団体、マスコミ他

4. 参加者 100名程度

5. セミナー内容

(1) 基調講演:

①三菱化学㈱ 瀬戸山亨 執行役員 フェロー

「21世紀の世界、化学産業が直面する課題と循環炭素化学の役割」

②㈱クラレ 井出章子 IR・広報部長

「「ミラバケツソ」の夢」

(2) パネルディスカッション

コーディネーター: 一橋大学 大学院商学研究科 橘川武郎 教授

パネリスト : (一財)日本経済研究所 鍋山徹 専務理事・

地域未来研究センター長

経済産業省 製造産業局 茂木正 化学課長

法政大学 経済学部 化学研究室 山崎友紀 教授

石油化学工業協会 浅野敏雄 会長

当日第一部の基調講演では初めに瀬戸山 三菱化学 執行役員・フェローが、炭素資源を”もったいない！”という気持ちで使用する日本人の精神性と日本の持つ先端技術を評価するとともに、さらなる原料転換に向けた技術革新の必要性を説きました。



瀬戸山氏講演

次に、井出 クラレ I R・広報部長が、「モノ作り」に魅せられ、自らが新製品開発に携わった経験を基に、次世代製品の開発と循環炭素化学の関わりを説明するとともに、広報担当の立場からの製品開発への関わりについて語りました。



井出氏講演

第二部のパネルディスカッションでは、橘川 一橋大学教授のコーディネートのもと、活発な意見交換が行われました。各パネリストの発言要旨は以下の通り。



コーディネーターの橘川教授と4名のパネリスト

- ・鍋山 日本経済研究所 専務理事  
「21世紀は”医（ヘルスケア）・職（多様な生き方）・柔（バイオ・人工光合成）”の時代だ。今後、素材産業は「B to B」から「B to S (social)」へ考え方の転換が必要だ。」
- ・茂木 経済産業省 化学課長  
「資源の少ない条件下で日本はイノベーションを展開してきたが、今後さらに未利用の資源の有効活用が必要となるであろう。そのひとつの姿が「循環炭素化学」だ。」
- ・山崎 法政大学 教授  
「化学の魅力を広くアピールするための努力が必要だ。次代を担う子供たちへの教育の重要性を説いてゆきたい。宇宙・地球の歴史の中で炭素がどのように化けて来たかを考えるのは大変興味深いことだ。」
- ・浅野 石油化学工業協会会長  
「”循環炭素化学”とは経済合理性だけではなく、有限な資源を循環させ生産活動をしているということを説いている点で重要だ。このネーミングを広く世界に普及させて行きたい。」



熱心に語るパネリスト4名



セミナー会場全景

以 上

# セミナー 「”循環炭素化学”を語ろう！」

主催：石油化学工業協会

日時：2014年11月21日(金) 15:00～17:30

会場：安田コミュニティープラザ

15:00 開会

15:05 基調講演

21世紀の世界、化学産業が直面する課題  
と  
循環炭素化学の役割



瀬戸山 亨  
(三菱化学(株) 執行役員 フェロー)

1983年入社。2013年4月より現職。2014年4月、グループ傘下の(株)三菱化学科学技術研究センターに名前を冠した「瀬戸山研究室」が設置され、中長期を見据えた事業テーマの創出に取り組む。産学官連携にも力を入れている。

「ミラバケツ」の夢



井出 章子  
(株)クラレ IR・広報部長)

1987年入社。1999年から休職して2年間大学院 体育研究科で学ぶ。復職後は新事業開発、同社初の女性海外駐在員として中国 上海で現地法人の社長などを歴任し、2013年5月 IR・広報部次長、2014年4月より現職。

16:10 休憩

16:20 再開、ロゴマーク紹介

(裏面をご参照ください)

## パネルディスカッション

コーディネーター



橘川 武郎  
(一橋大学 大学院商学研究科 教授)

1975年東京大学経済学部経済学科卒業。経済学博士。経営史、エネルギー産業論、地域経済論が専門。東京大学社会学研究所教授などを経て、2007年4月より現職。総合資源エネルギー調査会 委員など公職も多数。2013年6月より(株)三菱ケミカルホールディングスの社外取締役も務める。

パネリスト



鍋山 徹  
(一財)日本経済研究所 専務理事  
・地域未来研究センター長)

1982年日本開発銀行(現 日本政策投資銀行)入行。2000年米国スタンフォード大学国際政策研究所客員研究員を経て、2011年同行産業調査部チーフエコノミスト。2013年6月より現職。専門分野は産業技術論。新化学技術推進協会・戦略委員会委員、クールジャパン機構シニアフェロー。テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」のレギュラーコメンテーターも務めた。

パネリスト



茂木 正  
(経済産業省 製造産業局 化学課長)

1992年通商産業省(現 経済産業省)入省。資源エネルギー庁資源・燃料部政策課燃料政策企画室長、省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー対策課長などを経て、2013年7月より現職。

パネリスト



山崎 友紀  
(法政大学 経済学部 化学研究室 教授)

1993年京都大学工学部工業化学科卒業、東北大学資源工学専攻にて工学博士。大阪大学客員研究員などを経て、2007年より現職。専門は水熱化学を中心とした、環境浄化、環境機能性材料の合成など。文系学生への自然科学教育を行うとともに、子どもや一般市民への実験教室など化学の啓蒙活動に努める。

パネリスト



浅野 敏雄  
(当協会 会長)

1975年旭化成工業(株)(現 旭化成(株))入社。ライフサイエンス総合研究所長、旭化成ファーマ(株)社長などを経て、2014年4月旭化成(株)社長。2014年7月より当協会会長。

17:30 閉会

「循環炭素化学」のロゴマークが出来ました！



# 循環炭素化学

Carbon Chemistry の頭文字「C」「C」をシンボリックにデザインしたコミュニケーションマークです。  
重なり合い回転するC のフォルムは、地球とそれを取り巻く炭素の循環を表現しています。  
カラーリングのブルーとグリーンは、先進性と環境を表し、「循環炭素化学」のイメージを再現しています。

designed by 宮坂 克己 ((有)ケイアタック)



宮坂 克己  
1994年(有)ケイアタック設立。  
VIデザイン、GUIデザイン、ロゴタイプ、空間グラフィック、パッケージデザイン等が主な仕事。

有限会社 ケイアタック  
〒156-0042 東京都世田谷区羽根木1-21-23 羽根木の森#04  
Tel: 03-3323-6123 Fax: 03-3323-6124  
e-mail: katsumi@k-attack.com mac@k-attack.com

代表作

爽健美茶®

アグリバス®

DDI  
POCKET

KIRIN  
agribio